

平成 28 年度第 1 回 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
世界自然遺産候補地科学委員会 議事概要（助言・要請事項等）

<日 時> 平成 28 年 11 月 2 日（水） 15：30～18：30

<場 所> 奄美観光ホテル

<出席者> 土屋委員長、米田副委員長、小野寺委員、久保田委員、芝委員、服部委員、
星野委員、山田委員、横田委員
（欠席：伊澤委員、石井委員、太田委員、尾崎委員、宮本委員。事務局関係
者は省略）

<議 事> （１）奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会設置要綱の改正について
（２）世界自然遺産推薦に向けた取組の進め方について
（３）世界自然遺産の推薦区域等について
（４）世界自然遺産推薦書（案）について
（５）その他

<概 要>

議事 1 奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会設置要綱の改正について

- 推薦資産の正式名称の変更と経緯を説明した。
 - 世界遺産暫定一覧表記載に際し、平成 27 年 11 月に UNESCO 世界遺産事務局より、「案件名はより正確に対象地域を示すべきである」と、技術的観点から指摘を受けた。
 - これに対し、平成 28 年 2 月 1 日付で、4 島を併記した資産名称に変更し、暫定一覧表追記のための申請書を再提出した。
 - これが UNESCO 世界遺産事務局に受理され、世界遺産暫定一覧表に記載された。
- これに伴い、科学委員会設置要綱を改正し、科学委員会、ワーキンググループ及び地域連絡会議の部会の名称を変更することが了承された。

議事 2 世界自然遺産推薦に向けた取組の進め方について

- 世界自然遺産推薦に向けた今後の流れ（平成 28 年 11 月中に推薦書暫定版、平成 29 年 2 月 1 日までに推薦書を提出）と、具体的スケジュール（委員からの推薦書と文版のコメント戻し〆切、英文版の事務局からの送付日と委員からのコメント戻しの〆切）を説明し、推薦書（案）の確認協力を依頼した。

議事 3 奄美・琉球世界自然遺産の推薦区域等について

- 推薦地域 4 地域の保護担保措置として、国立公園の指定・拡張の進捗状況（奄美群島国立公園（仮称）のパブリックコメント開始、やんばる国立公園の指定、西表石垣国立公園の拡張）を説明した。

- 奄美大島・徳之島の推薦区域（案）及び OUV に係る主題図が説明された。
- また、改めて沖縄島北部及び西表島の推薦区域（案）が示された。

〈委員質問・助言・要請事項等〉（注：●は委員の発言、→は事務局の発言）

- 奄美大島で龍郷町の長雲峠付近の第 1 種特別地域と第 2 種が、推薦区域及び緩衝地帯に含まれないのはなぜか。アマミノクロウサギやケナガネズミは、70～80 年代の文献では連続的に分布した。マングース防除の結果、分断された分布域は連続的になりそう。個体群の保全から考えて推薦区域に入れるべきではないか。
- 完全性の面で、一定面積でまとまっていることが重要で、推薦地域として価値のある地域を中央に集中して示した。ご指摘の地域は、希少種の回復が見られる重要な地域であり、島として全域的に管理が必要と考えている、管理計画で「周辺地域」の設定を地域連絡会議等で決めており、きちんと管理したい。
- 徳之島や沖縄島北部にも分断された地域はあるが、推薦区域や緩衝地帯の考え方と矛盾しないか。
- 分断は事実だが、「周辺地域」の考え方を踏まえ、コリドー等をつなげることを考えており、管理計画に盛り込むことを検討したい。
- 希少種保護の観点からは、国立公園や世界遺産登録を通じた、個体群の回復・安定が重要と考える。世界遺産の評価において、管理計画が十分に理解・評価されるならそれで良い。
- 世界遺産の基準を満たす区域と、希少種保全に必要な地域とは別けて考える必要がある。自然保護の必要性は国立公園区域だけでなく島全体に及ぶ。世界遺産登録がゴールではなく、その過程で理解を深め、全島の保護水準を上げるところがゴールである。
- 推薦地の自然の評価において、希少種が多い二次的自然の評価の対外的な説明が必要ではないか。奄美群島の国立公園の計画書で、積極的な回復として森林再生が記載されたことは極めて重要である。二次林の積極的な評価を推薦書に記述するかは別として、事務局として認識しておいて欲しい。
- 徳之島について、推薦区域の規模や分断が心配だ。分断箇所の森林再生やコリドー等、「周辺地域」を充実させる考え方を提示し、IUCN 評価ミッションに対し、次のステップを前向きに、具体的に示せるよう準備するとよい。
- 徳之島の南北分断について、現状調査を実施する。地元の理解を得ながら、地元自治体、県、環境省でコリドーの具体的方策を検討したい。
- コリドーは緩衝地帯の外側だと理解しているが、推薦書に記述できるか。
- 同時に提出する管理計画で、周辺地域を図示して行動計画を添付することを考えている。
- 奄美大島、徳之島で推薦地が剥き出しの箇所があることが気になる。緩衝地帯の機能

の工夫はあるか。

- ➔ 国立公園区域の地元との調整で剥き出しになる場所があり、拡張は難しい。管理計画では「周辺地域」でカバーすることを想定しており、外来種やロードキルの対策の取組を行動計画で書き込みたい。
- 地元自治体が、自然保護や世界遺産をどう考えるかが重要だ。緩衝地帯や周辺地域の施策によって登録地域を阻害しないことを、地元自治体と環境省等と一緒に議論し、少しでも実現する方向で努力することをお願いする。
- 具体的な保全対策のアイデアとして、畑に森林が迫る場所は、車道をトンネルにし、その上を動物が通れるようにする等、考え方や図面を示すことで評価が得られないか。

- 科学委員会の初期に、陸域から海域への連続性を議論した。区域の拡張は難しいが、周辺地域やコリドー等の考え方等、説明を求められた場合に回答出来るようにしておくべきだろう。
- 海域との一体的な考え方が重要と思う。核心部は海域も含めた相互関係の中で存在する。少なくとも、1つくらいは水系を上から下まで含むよう準備されるべきと思う。それを膨らませていくと、一体性をどう認識しているかの説明になると思う。
- ➔ 推薦区域は国際的基準で決めるということで、森林性希少動物の保全が中心で、山地が推薦区域の中心である。一方で、地域全体で遺産価値の保全という考え方は重要と認識しており、山地から海域の連続性を意識した保全は考えていく必要がある。地域全体で世界遺産を支えるという考え方で管理計画、行動計画の議論を進めたい。

議事4 世界自然遺産推薦書（案）について

- 推薦書（案）作成にあたり、委員長からの提案で実施したブラッシュアップ打合せの概要を報告した。
- ブラッシュアップ打合せを踏まえて改訂した推薦書（案）につき、前回の科学委員会で提示したドラフト案からの変更点を説明。

〈委員質問・助言・要請事項等〉（注：●は委員の発言、→は事務局の発言）

- 島が南北に連なり、気温等の環境勾配が少しずつ異なることで、植物の分布等に勾配があることは、4島がセットでなければ表せない特徴だ。例えば「2.a.1.2.1. 気温・降水量」に、「最寒月の気温が4島で異なり、生物の分布に影響を与えている」という記述を加えると良い。
- 冬の気温の違いがわかるように（地図またはグラフの）スケールを拡大して4島を並べ、南方系や北方系の植物の種数を示すと、視覚的にわかりやすくなるのではないか。
- 過去に島袋敬一氏が琉球列島の南限植物等を表で報告したものはあると思うが、その後アップデートしたものは無いと思われる。
- 図2-7「4地域の月別平均気温と月別平均降水量」のグラフは、沖縄島北部の気温がずれていないか確認して欲しい。その他、特徴的な植生で挙げられた種の事例などの適

正化について、細かい点は別途連絡する。

- 「琉球列島の古地理と生物の動向の推定図」について、トゲネズミ属の祖先種は大陸で化石が確認されているか、それとも仮説の段階か。アマミノクロウサギは図の C（後期中新世～前期更新世）で奄美大島、徳之島に分化、沖縄島で絶滅した化石の証拠がある。トゲネズミ属は *Apodemus* から独立したという Sato の論文があるが、大陸で分化したという確定なものがあるか、確認した方が良い。
- 「4.a.2.1. 外来種の進入」に、記載されたノネコ及びノラネコの取組は重要。「飼い猫の適正飼養推進」の記述は、不妊化推進、捨て猫防止等と膨らませて欲しい。地域の理解・協力が重要な取組の重点になるものであり、それは審査の際に問われる。国、県、市町村の取組をしっかりと記載した管理計画を作って欲しい。地域の取組が科学的な根拠に基づいて行われていることが重要だ。
- ➔ 国、県、市町村、民間団体が連携して適正飼養を進め、ノラネコの発生防止を進めることが管理計画に記載されている。科学的根拠については指摘をふまえていきたい。
- 沖縄島北部では約 20 頭のノイヌ集団が出現している。ノイヌ及びノライヌの取組は「4.b. 2) 外来種」で若干触れられているのみ。マングース防除の取組は世界に認められているが、20 年経っても根絶できていない。他の外来種も含め取り組むべき課題はまだ多い。もう少しポリシー、哲学を見せて欲しい。
- 推薦書をより分かり易くするには、琉球列島の中で 4 地域を選定した考え方、4 地域とした積極的意味の記述を追加するとよい。具体的には、全体の話として一体性の特徴を記述し、それから 4 島各々の特徴を記述すると良い。
- モニタリングの考え方や方法とも関連する。モニタリング対象を推薦地域 4 島に限定することは理解できるが、実際には（琉球列島の環境勾配の中で）段階的に変化しており、（推薦地 4 島以外も対象に）広く一体的なモニタリングが必要ではないか。一体性の考え方の補完にもなり、日本としての考え方を示すべきではないか。
- 外来種のモニタリングに関して、侵入予防、再侵入予防の記述も欲しい。マングースは根絶後の再侵入予防が重要だ。特に沖縄島は中南部に高密度地域を抱えており、モニタリングしつつ、予防措置の早期展開が管理上重要だ。
- 観光についての記述があっさりしすぎないか。世界遺産との関係で、地域の期待は観光の増加による経済効果であり、一方で過剰な観光は生態系維持に悪影響がありうることについて、定性的な方向（原則として核心地域はエコツーリズムのみ、緩衝地帯の外ではマスツーリズムに対応する等）を記述すべきと思う。

議事 5 その他

- 事務局から今後の具体的スケジュール（議事2関係）について再度説明した。

以上。